資料６－１

協働による丸亀市の未来を考える　まちづくりワークショップ

丸亀まちづくりラボ　（途中報告）

１．開催概要

日　時：令和５年７月８日（土）、７月22日（土）、８月５日（土）、８月19日（土）
時間はいずれも14：00～16：00

場　所：丸亀市市民交流活動センター（マルタス）２階　ROOM3・4

目　的：第二次協働推進計画（仮称）の策定に向けて、協働推進のために必要な取組について参考となるご意見をいただくこと。同時に参加者の協働に対する知識を深めつつ、協働が進んだ社会に必要な項目について、それぞれの立場での役割や行動についてイメージしていただく機会とする。

テーマ：第１回（７月　８日）：協働について考える
第２回（７月22日）：目指す姿を考えよう　協働の魅力
第３回（８月　５日）：目指す姿を考えよう　協働が生まれるために必要なこと
第４回（８月19日）：目指す姿を形に

参加者：市民・地域コミュニティ関係者、市民活動者、事業所にお勤めの方、市職員（協働推進員）マルタス職員、
第１回（７月　８日）：31名
第２回（７月22日）：33名
第３回（８月　５日）：28名

ファシリテーター：前マルタスセンター長　佐藤光さん

２．第１回　協働について考える

①「丸亀まちづくりラボ」の 4 つの目的、協働に関するこれまでの丸亀市の取り組み、丸亀市の現状と将来予測について説明。

【4 つの目的】
1.協働とは何か、なぜ協働が必要なのかを一緒に考える。
2.「協働のまちづくりに関するアンケート」の結果から協働に関する現状や認識を確認する。
3.協働によるまちづくりが行われている 2040 年の丸亀のまちの姿を共有する。
4.目指す丸亀のまちの姿を実現させるために必要な取組を考える。

②ミニ講義「なぜ協働によるまちづくりが必要なのか」
●講師：香川大学地域人材共創センター講師　大村隆史さん

【協働とは】
同じ目的のために協力して働くことを指す言葉。
対等な二者以上の主体が共通の目的を持ち、お互いの特性を活かしながら協力すること。
・「協働」そのものが目的ではなく、協力の手段として考えることができる。
・まちづくりには行政だけでなく、市民の協力が必要不可欠であり、そのための手段として協働が注目されている。「協働」は人を育て、まちを育てる可能性のある取組といえる。

【協働の 6 つの原則】
対等 ・ 自主性の尊重 ・ 自立化 ・ 相互理解 ・ 目的共有 ・ 公開

③ワークショップ
自己紹介を通じて、ラボに参加した理由や参加者へ伝えたいことなどをお互いに発表した。また、協働に対するイメージについて、講義を聞く前と聞いた後ではどのように変化したかをグループ内で話し合い、「まだよく分からないところもあるが、必要性を感じている」や「協働についての具体例が知りたい」などの意見があった。

３．第２回 目指す姿を考えよう 協働の魅力

①令和３年度丸亀市提案型協働事業「丸亀城ボードゲーム製作事業」を例に、協働する際に必要な「役割分担」や「相手を理解しようとする姿勢」について伺った。
また、事業を実施して感じたことなどを対談形式で実施。

・さぬきファミリーゲーム倶楽部：代表　林賢治さん
・産業観光課：宮竹祐輝さん
Q：事業を振り返って、協働することの意味とは何だと思いますか。
A：市民団体だからできること、市だからできること、それぞれの強みと強みが掛け合わさることでより質の高い成果につながることだと思います。
Q：協働する上で大切にしたことは何ですか。
A：「市の施策」と「市民団体の想い」のバランスをとることです。どちらかに偏らないように気を付けました。
また、お互いを理解するため対話を重ね、事業の方向性なども頻繁に連絡を取り合って確認しました。

②ワークショップ　テーマ：目指す姿を考えよう協働の魅力
まずは自分目線で考える「困っていること」について、同じグループの人から解決へのアドバイスをもらう。たとえば、「活動する資金に困っている」に対して「市の〇〇課に対象の補助金があるよ」や、「仲間が集まらない」に対しては「SNS で呼びかけてみては」などのアドバイスがあった。「自分たちだけでは解決できないことも、相談したり助けてもらうと解決できそう。」という感覚を体感していただいた。
次に個人から地域社会へと視点を変え、2040 年に想定される「社会問題カード」に対して、どこの団体とどこの団体が協力すれば解決できそうかを「協働の担い手カード」を使って考えるもの。また、その担い手には「もの」「人」「情報」など、どのような協力を期待するかをグループで話し合い、発表していただいた。

外国人労働者や外国籍の住民が増え、
地域社会との間で軋轢、摩擦が生じる。

市クリーン課 ゴミの分別指導	×	**市民活動団体** 翻訳サポート	×	**マルタス** 交流の場

身近にあるゴミの出し方問題を例に、市が分別を指導するために、市民活動団体が翻訳等をサポートすることを提案。また、日頃から地域住民と交流し、日本の社会やお互いについて理解することが重要なのでマルタスを交流の場として活用する。

４．第３回 目指す姿を考えよう 協働が生まれるために必要なこと

①「信頼で築く丸亀市さわやか協働推進条例」の名称や前文に書かれている理念や目的、基本原則や、それぞれの主体の役割を確認。また、「丸亀市市民交流活動センター条例」でマルタスの設置目的にも触れ、まちづくりの担い手同士をつなぎ、協働を推進する施設であること。そのため「まちづくりラボ」をマルタスで開催したことをお伝えした。

②ワークショップ　テーマ：目指す姿を考えよう　協働が生まれるために必要なこと

まず、「信頼で築く丸亀市さわやか協働推進条例」に基づき、現行の協働実行計画に示されている 4 つの基本施策について、なぜその施策が必要なのかをグループで話し合い、次に、基本施策や個別施策について、「自分の立場でできること」や「関われること」、「やってみたいこと」を付箋に書き出し、それを基に協働推進のための具体的な取り組みや、その取り組みに必要な要素や仕組みについて、グループごとに発表していただいた。

第3回丸亀まちづくりラボ　協働が生まれるために必要なこと

ワークショップで各グループから出たご意見の要旨を3つの施策にまとめました。

Ⅰ　情報発信

□ＨＰ･広報紙･ＳＮＳ等で情報発信
□相手に届く情報発信
□市民活動や協働の情報発信・啓発
□コミュニティの情報発信・共有
□研修や活動拠点の情報発信

Ⅱ　活動基盤の充実

□マルタスやコミュニティセンターの魅力発信
□地域の活動場所の充実・開拓
□交流・活動の場の提供
□専門の相談窓口・コーディネーター
□市民活動団体の紹介

Ⅲ　相互交流・人材育成

□交流の機会の提供・充実
・様々な世代や立場の人との交流
・人と地域のつながりづくり
・地域づくりへの参加と声かけ
・活動に対する思いや地域のニーズを知る
・信頼でつながる人づくり
・相互理解
□研修の実施
・研修内容の充実
・研修内容の発信・共有
□若い世代の育成
□協働事業実施のための支援
・協働事業の推進
・担い手の育成
・ルール化